開講日	2024年秋期 火曜日 18:30-20:00	講義場所	Web (Zoom)配信 + 録画配信
コースディレクター	名古屋市立大学大学院医学研究科 麻酔科学・集中治療医学分野 教授 杉浦健之		

科目概要 および 期待される 成果	<p>【概要】毎年、痛み診療に直接関わる、あるいは、興味を持っているスタッフが大勢参加してくれています。本年度の学びなおし講座は、術後急性痛からさまざまな慢性痛、小児・高齢者に特有な痛み、器質的疾患から機能的疾患、心理社会要因への対応など、“痛み”に関わる広い領域のレクチャーを企画いたしました。医師、看護師、薬剤師、心理士、理学療法士と、多診療科・多職種からの講師陣を揃え幅広い領域の中での”痛み”の最新情報や、”痛み”診療現場における生の声をお届けいたします。リピーターの参加者にも楽しんで勉強していただけるよう、毎回新たな講師陣を迎え、皆様のご参加をお待ちしております。</p> <p>【期待される成果】どの専門領域でも、痛みに関わらない医療分野はありません。医師や看護師の他、薬剤師、理学療法士、臨床心理士、管理栄養士、社会福祉士など多職種の方々に、痛み診療に関わるハイレベルな知識と技術を身につけていただき、“多職種チーム医療”に貢献できる人材育成を目指しています。痛みにお困りの方に寄り添い、適切な治療やアドバイスが出来る仲間をますます増やしていきたいと考えております。</p>
目標とする 資格	<p>いたみマネージャー・いたみコーディネイター(日本痛み財団)など</p>

サブカテゴリ	No	タイトル	講義概要	開講日	講師(所属)
L-1	1	痛み診療の問題点と当院の取り組み	当院では50年以上続くペインクリニックを中心とした痛み診療体制から、多職種が関わるチーム医療へと形を変えてきています。最近の痛み診療現場での問題点や当院及び全国痛みセンターの取り組みなどについて紹介させていただきます。	9月3日	教授 杉浦健之 名古屋市立大学大学院医学研究科 麻酔科学・集中治療医学分野・名古屋市立病院 いたみセンター
L-2	2	腰痛に対する整形外科的アプローチ	腰痛は病院受診の主訴で多い疾患の一つである。整形外科医は“腰痛症状”の原因である“疾患を治す”ということを考えますが、実際には原因が特定できない腰痛も多く治療には難渋します。腰痛を引き起こす各疾患に対しての整形外科医としてのアプローチを解説します。	9月10日	講師 加藤賢治 名古屋市立大学大学院医学研究科 整形外科
L-7	3	小児の痛み	小児は成人に比べ基礎疾患が少なく、手術を受ける機会も少ないです。さらに、痛みを周囲に上手に伝えることができない場合も多いです。小児の痛みへどのようにアプローチするのか概説します。	9月17日	講師 徐 民恵 名古屋市立大学大学院医学研究科 麻酔科学・集中治療医学分野・名古屋市立病院 いたみセンター
L-4	4	帝王切開後の痛み一満足度の高い術後鎮痛管理を目指して一	帝王切開を受ける産婦さんは増加傾向にあります。帝王切開を受けた産婦さんにとって、疼痛は最も重要な関心事の一つです。強い疼痛が継続すると身体機能の回復の遅れや産後うつリスクを上昇させ、育児にも悪影響を与える可能性があります。近年では、早期回復を目指した鎮痛戦略やオンデマンド鎮痛など新たなアプローチが試みられています。その辺りも含めて解説します。	9月24日	助教 上村 友二 名古屋市立大学大学院医学研究科麻酔科学・集中治療医学分野
L-5	5	慢性痛の評価と運動療法の実践	慢性痛では、痛みに対する回避的・防衛的行動によって、関節機能や体力が低下します。また、痛みによって何もできないといった自己効力感の低下につながります。この悪循環を改善するための治療戦略として運動療法は重要です。本講義では、慢性痛の評価と運動療法の実践について解説します。	10月1日	部長 理学療法士 堀場充哉 名古屋市立大学病院 診療技術部
L-6	6	帯状疱疹関連痛の病態と治療	帯状疱疹関連痛は帯状疱疹に関連した痛みの総称です。帯状疱疹関連痛は時間の経過とともに痛みの病態と性状が変化します。痛みにより患者のQOLが著しく低下するため、発症早期から適切な治療を行うことが大切です。ここでは帯状疱疹関連痛のメカニズムや治療法(薬物療法や神経ブロック治療など)について説明します。	10月8日	准教授 草間宣好 名古屋市立大学医学部附属西部医療センター 麻酔科
L-3	7	股関節の構造と痛みの出現するメカニズムと治療	股関節の痛みは様々な病気や怪我で起こります。本講義では、①股関節の構造 ②痛みの出現するメカニズム③リハビリテーション ④最新の手術などについてお話しします。	10月15日	講師 黒柳 元 名古屋市立大学大学院医学研究科 リハビリテーション医学分野 名古屋市立病院 いたみセンター
L-8	8	多職種チームによる術後痛管理	手術後の早期回復と社会復帰を目指して、周術期ケアセンターでは手術後だけでなく、手術前の段階から術後痛への介入を積極的に行っています。本講義では、周術期における術後痛の考え方や対策、チームの取り組みについてお話しします。	10月22日	薬剤師 榊原諒子 名古屋市立大学病院 薬剤部 周術期ケアセンター いたみセンター
L-9	9	不安症とその薬物療法について	痛みの患者ではしばしば不安や抑うつなどの症状を併発し、さらにこれらの症状が痛みの閾値を下げることで痛みを感じやすくなるという悪循環に陥る場合があります。本講義では、不安及び不安症とその薬物療法について概説します。	10月29日	教授 小川 成 名古屋市立大学大学院人間文化研究科臨床心理コース
L-10	10	発達障害の痛み、子どもの痛み	治りにくい痛みを訴える方の中には、発達障害が背景になる方も珍しくありません。発達障害について解説します。またこういった患者さんの一例をあげ、どんな特徴があるか、どう対応すべきかを話します。また発達障害は児童精神科医が対応することが多い疾患です。児童精神科医の視点から見た、子どもと痛みの問題も取り上げます。	11月5日	教授 山田敦朗 名古屋市立大学大学院医学研究科 こころの発達医学寄附講座 名古屋市立大学病院 こころの発達診療研究センター
L-11	11	がんに伴う痛みに関する症状マネジメント	がん患者さんは、身体的な痛みのみならず、精神的・社会的・スピリチュアルな苦痛より、全人的な苦痛を抱えています。多角的に患者さんの痛みを捉えることで適切なアプローチ方法が検討できるよう、臨床の看護師の立場からお話させていただきます。	11月12日	がん看護専門看護師 伊藤祐以 名古屋市立大学病院看護部
L-12	12	慢性疼痛とうつ	慢性疼痛は人の心と相互に影響を与え、臨床現場では「うつ」として目の前に現れることもあります。本講義は体の痛みと心のつらさをどうやって評価し、どう治療につなげるかを中心に解説します。	11月19日	助教 野木村茜 名古屋市立大学大学院医学研究科 こころの発達医学寄附講座
L-13	13	慢性痛患者の痛み行動(疼痛行動)	慢性痛の領域では、患者の痛みに伴う行動として「痛み行動(疼痛行動)」が知られています。本講義では「痛み行動」の定義から、臨床でよく見られる実例、それへの対策まで、行動科学の観点から解説します。	11月26日	特任助教 臨床心理士 公認心理師 いたみ専門医療者 酒井美枝 名古屋市立大学大学院医学研究科 精神・認知・行動医学分野 名古屋市立大学病院 いたみセンター
L-14	14	がん患者のからだところのいたみを和らげる緩和ケア	がん患者さんは、からだやお気持ちに様々な悩みを抱えていることが知られています。本講義では緩和ケアの観点から、からだやこころのケアについて解説します。	12月3日	副室長 心理士 伊藤嘉規 名古屋市立大学病院 臨床心理室 緩和ケア部 いたみセンター
L-15	15	高齢者の痛み	高齢者は複数の疾病に罹りやすく、その多くは痛みを伴うため、生活全般に大きな影響を与えます。したがって、高齢者に対する痛みのマネジメントが重要であり、まずは痛みのアセスメントが必要になりますが、認知機能の低下等で、適切なアセスメントを行うことが困難になります。本講義では高齢者の痛みアセスメントについて概説します。	12月10日	教授 久保田正和 名古屋市立大学大学院看護学研究科 看護地域連携センター